

“台湾鉄道との友好協定締結10周年記念”

SL全般検査 台湾鉄道社員の視察受入れを開始

～ C11 325 全般検査 ・ 2026 年7月から約1年間 ～

東武鉄道株式会社

東武鉄道株式会社（本社：東京都墨田区）は、臺灣鐵路股份有限公司（以下、台鉄）との友好協定締結10周年記念事業の一環として、台鉄社員を対象とした蒸気機関車（SL）全般検査に関する技術視察の受入れを2026年7月より開始しました。

本事業は、友好協定締結10周年を記念する取り組みの柱の一つであり、東武鉄道が保有・継承してきたSLの保守・整備技術を台鉄へ伝承することで、両社が有する貴重な鉄道産業文化遺産である蒸気機関車の保存・活用を将来にわたり推進することを目的としています。

東武鉄道は、「鉄道産業文化遺産」の保存・活用を理念に、2017年よりSL「大樹」の運行を開始し、日光・鬼怒川エリアの地域活性化と鉄道文化の継承に取り組んでまいりました。このSL復活プロジェクトは、JR各社をはじめとする全国の鉄道事業者の協力のもと実現したものであり、鉄道の原点を未来へつなぐ象徴的な取り組みとなっています。

今回の技術交流では、台鉄の技術員6名が約1年間にわたり交代で来日し、東武鉄道が実施する蒸気機関車の全般検査を通じて、SL整備に関する専門技術や知識を習得します。第一陣として3名の技術員を受け入れ、現場における視察を開始しました。



▲SL技術交流プロジェクト 開始記念式典の様子

本件は、2025 年 12 月から台鉄台北駅で展示を開始した東武鉄道の特急車両「日光詣スペース」に続く、友好協定締結 10 周年記念事業の中核プロジェクトです。鉄道観光をテーマとした国際文化交流の新たな取り組みとして、日台双方の観光振興や相互理解の促進、さらには両社の相互プロモーションにも大きく寄与するものと考えています。

東武鉄道は今後も台鉄との連携を深め、双方が有する文化・技術・観光資源を活用した交流を推進することで、交流人口の拡大や地域活性化に取り組み、日台双方の発展に貢献してまいります。

< S L 技術交流プロジェクト >

事業名：臺灣鐵路・東武鉄道 友好協定締結 10 周年記念事業『S L 技術交流プロジェクト』

期間：2026 年 7 月～2027 年 7 月（予定）

場所：東武鉄道 南栗橋車両管区 S L 検修庫 等

受入人数：台鉄技術員 6 名（交代制）

内容：蒸気機関車全般検査に関する技術交流



▲蒸気機関車全般検査 視察の様子

以 上

< 参 考 >

・ 東武鉄道と台鉄（臺灣鐵路股份有限公司）の交流について

東武鉄道と台鉄は 2015 年に友好協定を締結して以来、観光誘客や鉄道文化の振興を目的とした様々な交流施策を実施、友好協定締結 10 周年となる 2026 年には、台鉄台北駅での東武鉄道車両展示や本 S L 技術交流プロジェクトなど、両社の強みを活かした記念事業を展開しています。

・ 台鉄（臺灣鐵路股份有限公司）について

前身組織は台湾鐵路管理局（友好協定締結時／日本の国土交通省にあたる交通部に所属）で、2024 年 1 月に国営会社化しました。一般鉄道（在来線）の運営を主とする会社で、主要都市の M R T や台湾高速鐵路（台湾新幹線）とは別会社です。

路線総距離：約 1, 0 6 7 k m 駅数：2 4 2 駅 乗降客数：6 4 7, 7 0 0 人/日

台湾鐵路管理局設立日：1 9 4 8 年 3 月 1 日 国営会社設立日：2 0 2 4 年 1 月 1 日※現組織